

| | | | |
|---|---|-------------|-------|
| 年度 2008 学期 前期 | 曜日・校時 水2 | 必修選択 選択 | 単位数 2 |
| 授業科目/(英語名) | 人間の科学 (科学史) Human Sciences (History of Science) | | |
| 対象年次 1・2年次 | 講義形態 講義 | 教室 | |
| 対象学生(クラス等) | 全学部 | 科目分類 人間科学科目 | |
| 担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 中村修 /Eメールアドレス: osamu.nakamura@nifty.ne.jp /研究室: 環境科学部3F /TEL:095-819-2727 /オフィスアワー: 火曜日 13-17時 | | | |
| 担当教員(オムニバス科目等) | | | |
| 授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 科学は中立でも公平でもなく、権力に左右され、利害に振り回されて歪んで発達してきた、ということについて環境問題、食の問題、避妊など具体的な事例を挙げながら、科学の経済依存性について説明する。 授業方法: 一方的な講義にならないよう、また考える力、話す力を養うため講義では、多くの学生に発言を求めながら、展開する。 授業到達目標: 科学が相対的なものであることを理解できる。人前で自分の考えをきちんと伝える力を身につける。 環境問題と食の問題、男性学の関連について理解できる。 | | | |
| 授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 科学が発達したのになぜ地球規模で環境問題が発生したのか これ以上、科学が発達することで環境問題は、本当に解決するのか 環境問題など、具体的な課題を掲げながら、科学のあり方について様々な視点から議論する 第1回 科学者のイメージ 第2回 商品としての科学 第3回 なぜ山の上に木が生えているのか 第4回 循環の科学と循環を破壊する科学 第5回 科学が発達したのになぜ環境問題は大きくなったのか 第6回 東大の宇井純はなぜ助手のままであったのか 第7回 環境問題、食の問題、女性学、男性学の関連について 第8回 食の科学 その1 第9回 食の科学 その2 第10回 食の科学 その3 第11回 なぜ中絶を繰り返すのか 科学と宗教 その1 第12回 // その2 第13回 報告 1 第14回 報告 2 第15回 報告 3 | | | |
| キーワード | | | |
| 教科書・教材・参考書 | 「なぜ経済学は自然を無限ととらえたか」中村修 日本経済評論社(参考資料) 「やさしい減農薬の話」中村修 北斗出版(参考資料) | | |
| 成績評価の方法・基準等 | レポート 50%、報告 40%、ノート 10% で評価する なお、レポートは、メールで提出すること。 | | |
| 受講要件(履修条件) | | | |
| 本科目の位置づけ /学習・教育目標 | | | |
| 備考(準備学習等) | | | |